

事務事業の概要							
1	事務事業名	情報戦略・プロモーション事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興			
		今後の取組	1	観光客誘致の推進			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす			
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	観光対策費					
7	事業開始年度	平成	年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	観光客及び一般の人					
9	事業の目的	本市の歴史的遺産等の魅力を幅広くアピールし、もって多くの潜在的観光客が本市の観光資源に関心を持ち、観光に訪れることを目的とする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	1	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		奈良県中南和の観光拠点として宿泊を伴う観光客の誘客を目指し、首都圏をはじめ全国に向けた魅力発信や、インバウンドに向けた取り組みを推進する。					
11	事業の内容(手法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>観光基本計画の進捗状況を確認しながら事業を実施する。</li> <li>観光協会に委託する都市圏での誘客事業の継続実施</li> <li>全国誌（男性誌・女性誌）及び海外で発行される旅行誌への特集記事掲載</li> <li>インバウンドに向けたCIRの雇用による翻訳・営業活動の実施</li> </ul>					
		平成30年度からの拡充・変更内容（予算措置を必要とするものに限る）	観光プロモーション動画制作 540万円 発地型パンフレット制作 350万円 中南和広域パンフレット（英語版）制作 275万円 観光宣伝画像収集事業補助金 60万円				
12	指標の推移	名称（単位）	29年度 （総計目標値）	30年度 （見込み）	31年度 （見込み）	32年度 （見込み）	
	成果指標	市内宿泊客数	150,000	175000	200000	210000	
	活動指標	①					
13	コストの推移（単位：千円）		（当初予算）	（予算要求）	（見込み）	（見込み）	
	歳入（b）	歳出（直接事業費）（a）	15,946	30,253	30,253	30,253	
		受益者負担額					
		国県補助金等その他					
(a) - (b) = 一般財源		15,946	30,253	30,253	30,253		
14	増額理由	拡充事業	事業内容の拡充によるもの				
備 考							

事業の具体的内容の検討								
15	妥当性の検討	なぜ市が関与しているのか	番号	1 義務	法律等（条例を除く）で義務付けられた事業			
			2		法令名（ ）			
				2 任意	公共性や収益性の観点から市が関与すべき事業			
説明	国をあげて観光振興に取り組むなか、多額の事業費を伴う観光客の誘致は、観光協会や近隣市町村とも連携しながら、市が主導で取り組まなければならない。							
16	緊急性の検討	なぜ今なのか	説明	宿泊を伴う観光客の誘致が急務となっており、そのために首都圏や海外に向けた一層の本市の魅力発信が必要不可欠となっている。本市の知名度向上と、観光地としてのイメージアップ、中南和地域の拠点としてのイメージの確立が急務である。				
17	有効性の検討	期待される効果・メリット	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い	
			説明	イベント開催に比して観光客増加の即効的な効果は望めないが、全国あるいは海外の潜在的観光客が橿原市への認知度、関心を高めることで、通年での宿泊を伴う来訪が期待される。				
	上位施策（総合計画・基本計画）への貢献度	1	1 高い	2 やや高い	3 やや低い	4 低い		
		説明	観光振興の中核をなす「観光客誘致の推進」の誘客につながる観光情報の発信、広域連携による回遊型観光の推進に大きく貢献する。					
18	効率性の検討	コストの検証（費用対効果の検証を含む）	4	1 事業費も人件費も低減		2 人件費は増加するが事業費は低減		
				3 事業費は増加するが人件費は低減		4 事業費も人件費も増加		
			補助金等の有無	無	補助金名（ ）			
			説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>雑誌広告記事掲載、首都圏シンポジウム開催を継続実施。さらに観光PR動画の作成することで認知度の向上効果が期待できる。</li> <li>CIRを継続雇用することで、インバウンドに向けた翻訳やSNSでの情報発信、営業活動などの施策を拡大展開できる。</li> </ul>				

事務事業の概要							
1	事務事業名	ターゲティング事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興			
		今後の取組	1	観光客誘致の推進			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす			
		基本的方向	①	「橿原」の魅力を広く発信する			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	観光対策費					
7	事業開始年度		年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	観光客、首都圏・東海圏をメインとした潜在的観光客（コアなファン層）					
9	事業の目的	ターゲットに合わせた取組の推進、コアなファン層の確保と継続的なファンづくり及び継続的な調査の実施によるターゲットの明確化					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		各種調査を踏まえ、新たな客層となり得るターゲット層を定め、それぞれに合わせた取組を進めます。従来から橿原市のコアなファン層であるといえる、歴史・文化好きの方、考古学好きの年配の男性や、消費額の高い40～60代の女性層は、今後も本市にとって重要なターゲットであり、彼らが引き続き本市に魅力を感じ続けられるような取組を、継続して進めます。また、今後も、根拠に基づいたターゲットに合わせた取組が進められるよう、継続して調査等を実施します。					
11	事業の内容(手法)	「日本の伝統芸能」という切り口で講演を今井町・八木町で実施。首都圏でシンポジウムを実施。橿考研・県文化資源活用課・万葉文化館・市文化財課と連携し、発掘現場の見学、バックヤードツアーなどの実施。市内の遺跡や歴史的な建造物を活用し、縄文・弥生～奈良時代～江戸時代までの歴史を体験できるメニューを検討（土器作り、どんぐり灰汁抜き、石器作り、竪穴式住居宿泊体験、木簡作り、短歌づくり、火おこし、布織り、発掘体験、土笛・鏡づくり、銅鐸鑄造、土器を使った料理体験、太占体験など）。また、万葉歌碑の散策マップを作成、万葉の森を観光資源として有効活用。（万葉の植栽の復元）。「天上の虹（里中満智子）」「神武（安彦良和）」の活用。					
		平成30年度からの拡充・変更内容（予算措置を必要とするものに限る）	歌碑マップ作成：50万円				
12	指標の推移	名称（単位）	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	シンポジウム来場者数	400	400	400	400
	活動指標	① 日本芸能探訪実施回数	6	8	8	10	
		② 万葉歌碑マップ作成部数	0	20000	5000	5000	
	コストの推移（単位：千円）	(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)		
13	歳出（直接事業費）(a)		4,400	5,100	5,100	5,100	
		歳入 (b)					
	受益者負担額	0	0	0	0		
	国県補助金等その他	0	0	0	0		
(a) - (b) = 一般財源			4,400	5,100	5,100	5,100	
14	増額理由	継続事業					
備 考							
観光基本計画策定に伴い事業を大幅に再編							

事務事業の概要							
1	事務事業名	人材育成事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興			
		今後の取組	1	観光客誘致の推進			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-1	地域の特性を活かしたしごとをつくる			
		基本的方向	①	観光交流産業を振興する			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	観光対策費					
7	事業開始年度		年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	市民、市内各種事業者、ボランティアガイド					
9	事業の目的	事業者間の連携を通じた人材発掘（観光振興を通じた雇用の確保）、ボランティアガイドや観光関連専門スタッフの育成、シビックプライド（郷土愛）の醸成（まちの歴史・文化に関する情報・生涯学習機会の提供）					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		関連する事業者が一堂に会し、情報交換・情報共有、勉強会等を経ながら、民間主体で観光振興に取り組んでいけるような場を設定します。 市の歴史・文化に関する専門知識や得意分野を持った市民と観光ニーズとをマッチングさせ、市民が地域の誇りを持って生き生きと活躍できる場を提供し、地域の観光資源の付加価値を高めることを目指します。 市民が市の歴史・文化に誇りを持ち、訪れる価値のある魅力的なまちであると感じられるような働きかけや情報提供を推進します。					
11	事業の内容(手法)	地域限定通訳案内士について、その認定/育成事業を実施し、域内の雇用の確保を図る。 現在登録制のボランティアガイドについて、その質の確保を目的として更新試験制度を導入する。 観光知識、話し方/態度、みだしなみ等を試験項目として実施する。 自らの地域に対して愛着を持ち他地域からの旅行者を受け入れる側、また旅行者となって他地域を訪れる側の両面から期待できる子どもたちを「こども観光大使」として育成を図り、市の魅力を発信していくもの。					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)	観光ボランティアガイド事業補助金 (52万5千円⇒70万円) こども観光大使育成事業補助金 (50万円)				
12	指標の推移	名称 (単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
		成果指標	ボランティアガイド案内客数	8200	9000	10000	10000
	活動指標	① 地域限定通訳案内士数	30	30	30	30	
		② こども観光大使数		3	3	3	
13	コストの推移 (単位：千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出 (直接事業費) (a)		4,497	4,954	4,954	4,954	
	歳入 (b)	受益者負担額	0	0	0	0	
		国県補助金等その他	0	0	0	0	
	(a) - (b) = 一般財源		4,497	4,954	4,954	4,954	
14	増額理由	継続事業					
備 考							
観光基本計画策定のため事業を大幅に再編							

事務事業の概要

1	事務事業名	魅力あるまちづくり事業				
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち		
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興		
		今後の取組	1	観光客誘致の推進		
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす		
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る		
5	行革大綱の位置づけ	重点項目				
		項目				
		改革名				
6	予算事業名	観光対策費・各種行事助成事業費				
7	事業開始年度		年度	事業終了年度	平成	年度

事務事業の実施

8	対象	観光客、市民及び各種行事					
9	事業の目的	今井町を核とした市内観光地の活性化、行政・民間事業者・事業者間の連携強化、環境・景観整備の推進					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直しながらかける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		今井町を、檀原市観光の核に据え、市内観光地全体の活性化を図ります。また、魅力的な観光地の基礎となる環境整備を、市民参加型で進め、地域の活性化と連動した観光まちづくりを推進します。さらに、歴史的・文化的なまちなみや自然景観など、観光客が魅力的だと感じる景観を保持していくことができるよう、景観整備にかかるルールを設定し、観光地としての雰囲気や統一感の醸成を図ります。					
11	事業の内容(手法)	大和八木駅～八木西口駅～今井町～檀原神宮及び今井町～大和八木駅～八木西口駅～八木町間の景観保持に対する取り組みについて協議し、方針を確定（景観条例の強化、看板規制、美化事業に対する補助、路面のカラー化、電線地中化等、町並み保存地区の設定、八木駅周辺も含めた街づくりデザイン計画策定、歩・自転車・車道完全分離、大型車両の通行規制など） 補助要綱に基づき、各種行事・イベントを支援する。 景観担当部署等と協議の上、景観条例による景観規制の強化を図る。 観光地におけるゴミ清掃や草刈、花の植栽などに対し要綱を定め補助する。					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)	観光地におけるゴミ清掃や草刈、花の植栽などに対し要綱を定め補助（40万円） 2万円@団体×5団体×4シーズン				

12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)
	成果指標	今井町来客数(人)	3.3万人	3.6万人	4万人	4.2万人
	活動指標	① 各種行事・イベント補助件数	16	16	16	16
		② 清掃・植栽補助件数(新規)		5	6	7
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)
	歳出(直接事業費)(a)		63,790	59,113	59,113	59,113
	歳入(b)	受益者負担額	0	0	0	0
		国県補助金等その他	0	0	0	0
(a) - (b) = 一般財源		63,790	59,113	59,113	59,113	

14	増額理由	継続事業
----	------	------

備 考

観光基本計画策定により大幅に事業を組み替え

事務事業の概要							
1	事務事業名	魅力あるまちづくり（橿原市観光協会運営）事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興			
		今後の取組	1	観光客誘致の推進			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす			
		基本的方向	①	「橿原」の魅力を広く発信する			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	観光対策費					
7	事業開始年度		年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	一般社団法人 橿原市観光協会					
9	事業の目的	（一社）橿原市観光協会が、観光立市を目指す橿原市にふさわしい事業を展開する観光の担い手になるとともに、協会事業により多くの観光客を集客することを目的とする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		人員体制が整えられたことから、協会の事業拡大や新規事業、観光課との事業分担にかかる事業の費用を見定め、適正な補助を行っていく。					
11	事業の内容(手法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・（一社）橿原市観光協会が、観光の担い手となるよう協会の運営や事業に必要な市で定めた額を助成する。</li> <li>○橿原市観光協会運営補助金</li> <li>○橿原市観光事業補助金（橿原市親善大使「さらら姫」の選出ならびに運営補助・レンタサイクル運営支援事業）</li> <li>・HPの管理・更新を支援</li> <li>・事業補助金で観光協会が5カ年で作成する着地型パンフレットの印刷費用を支援</li> </ul>					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)	海外向けHPの作成（108万円）				
12	指標の推移	名称（単位）	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	協会事業数	28	29	30	31	
	活動指標	① 観光協会HPアクセス数	90000	95000	100000	105000	
		② ボランティアガイド案内客数	7000	8000	8500	9000	
13	コストの推移（単位：千円）		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出（直接事業費）(a)		33,365	33,670	33,670	33,670	
	歳入 (b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
(a) - (b) = 一般財源		33,365	33,670	33,670	33,670		
14	増額理由	継続事業					
備 考							

事務事業の概要							
1	事務事業名	受入れ環境整備事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興			
		今後の取組	3	観光施設の整備			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす			
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	観光対策費					
7	事業開始年度		年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	観光客					
9	事業の目的	市内周遊・近隣地域周遊のための体制整備及び受入れ体制の確保					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		市内の各観光地へのアクセスの良好さは、観光振興の重要な要素です。既存の取組の効果検証を行いながら、より良い方法を検討していきます。 観光客の満足度を上げるためには、観光客目線での利便性を意識し、確保していくことが重要です。本市を訪れる人に快適な滞在を楽しんでいただけるよう、観光施設や名所における案内表示の充実やデザインの統一化、多言語表示、ユニバーサルデザインの普及などの推進を検討・実施します。					
11	事業の内容(手法)	市内周遊・近隣地域周遊のための体制整備としてレンタサイクルを充実させるため、観光協会及び市内レンタサイクル事業者と市内全域におけるレンタサイクルの活用、利便性向上(乗り捨て等)、車種の増加(子供用/チャイルドシート付等)、自転車利用における道路整備などの環境整備等を議題として、観光協会、市内レンタサイクル事業者と協議し、今後の方向性を決定する。					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)	奈良県周遊ウォークルート案内サイン設置工事 1231万円 八木駅から藤原京への案内サイン 200万円 観光トイレ外壁清掃 50万円、市内全域案内サイン全面張替え(13箇所) 112万円				
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	市内レンタサイクル延べ利用数		5500	5700	6000	
	活動指標	① 超小型モビリティ利用者数		250	300	400	
		②					
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		47,270	35,402	23,090	23,090	
	歳入(b)	受益者負担額	0	0	0	0	
		国県補助金等その他	0	9,541	0	0	
	(a) - (b) = 一般財源		47,270	25,861	23,090	23,090	
14	増額理由	継続事業					
備 考							
観光基本計画策定により事業を大幅に組み替え							

事務事業の概要							
1	事務事業名	受入れ環境整備（檀原市観光交流センター運営）事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興			
		今後の取組	3	観光施設の整備			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす			
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	観光交流センター管理運営業務					
7	事業開始年度	平成 23	年度	事業終了年度	平成	年度	
事務事業の実施							
8	対象	檀原市観光交流センター					
9	事業の目的	大和八木駅前を広域的な観光拠点とすることで、観光客の利便性を向上するとともに、市民交流の場として賑わいを創造することを目的とする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		檀原市観光交流センターが、安全で快適な公共施設となるよう管理運営を行うとともに、観光センター（1・2階）が本市及び中南和の観光情報発信基地となるよう、指定管理者制度により情報の収集発信と絶えず変化のある観光展示、多彩なイベントを実施する。					
11	事業の内容（手法）	指定管理者制度による施設の管理運営 ・建物管理⇒各種設備の運転・保守点検、建物清掃、警備、その他の施設の管理 ・施設運営⇒観光案内、館内案内、特産品紹介、展示資料の更新、大型LEDビジョンの運営、映像機器の運営、イベントスペースの運営					
		平成30年度からの 拡充・変更内容 (予算措置を必要とする ものに限る)					
12	指標の推移	名称（単位）	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	利用者数（全館）	305000	310000	315000	320000	
	活動指標	①					
		②					
13	コストの推移（単位：千円）		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出（直接事業費）（a）		119,530	54,899	54,899	54,899	
	歳入（b）	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
(a) - (b) = 一般財源		119,530	54,899	54,899	54,899		
14	増額理由	継続事業					
備 考							
29年度は火災復旧の工事の費用が含まれる。							

事務事業の概要							
1	事務事業名	観光基本計画推進・進捗管理事業					
2	担当部名	魅力創造部	担当課名	観光政策課	課長名	細川 長人	
3	総合計画の位置づけ	目指す都市像	5	人と文化がふれあうまち			
		施策	4	歴史文化を活用する観光の振興			
		今後の取組	4	歴史・自然を体感できる観光の推進			
4	総合戦略の位置づけ	基本目標	3-2-2	新たな人の流れや交流を増やす			
		基本的方向	②	来訪者の増加を図る			
5	行革大綱の位置づけ	重点項目					
		項目					
		改革名					
6	予算事業名	檀原市観光基本計画策定委託料					
7	事業開始年度	平成 28 年度	事業終了年度	平成	年度		
事務事業の実施							
8	対象	市民					
9	事業の目的	平成29年6月に策定された檀原市観光基本計画に基づいた観光振興の推進と進捗管理を目的とする。					
10	改善内容を踏まえた今後の方向性	2	1 拡大する	2 見直ししながら続ける	3 縮小する	4 廃止又は休止する	5 完了する
		檀原市観光基本計画の推進をしながら、観光施策の内容と計画進捗度合いを確認し、フェーズごとの計画見直しを実施していく。					
11	事業の内容(手法)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・檀原市観光基本計画条例の制定</li> <li>・檀原市観光基本計画の周知・理解のための説明会実施</li> <li>・附属機関である檀原市観光基本計画審議会での審議</li> </ul>					
		平成30年度からの拡充・変更内容(予算措置を必要とするものに限る)					
12	指標の推移	名称(単位)	29年度 (総計目標値)	30年度 (見込み)	31年度 (見込み)	32年度 (見込み)	
	成果指標	進捗管理	説明会実施・事業評価	条例制定・事業評価	計画見直し・事業評価	事業評価	
	活動指標	①					
	②						
13	コストの推移(単位:千円)		(当初予算)	(予算要求)	(見込み)	(見込み)	
	歳出(直接事業費)(a)		1,728	577	3,000	577	
	歳入(b)	受益者負担額					
		国県補助金等その他					
(a) - (b) = 一般財源		1,728	577	3,000	577		
14	増額理由	継続事業					
備 考							